

第 2 回香南市産業振興計画策定委員会

— 議 事 録 (要旨) —

■日時：平成 26 年 1 月 20 日 (月)

午後 13 時半から

■場所：のいちふれあいセンター 2 階研修室

■出席者

○策定委員会委員

受田委員、西村委員、丸岡委員、澤田委員、竹内委員、北代委員、北村委員、
中内委員、松山委員、國沢委員、野中委員

○事務局

田内氏、浜田氏、益永 (オオバ)、湯浅 (オオバ)、小林 (オオバ)

○オブザーバー 清藤市長、近森氏 (県)

【次第】

1. 開会 (進行：事務局)

- ・委員長あいさつ
- ・事務局連絡事項

2. 議事 (進行：委員長)

議事 (1) 香南市産業振興計画の策定について 1. 香南市産業振興計画の目標

■委員長

- ・前回の委員会から出された意見の疑問に対して、この「資料 1」にて一定の回答をしている部分もある。
- ・1 つ目は、この産業振興計画とまちづくりランドデザインの検討委員会の関係。これは一回目では全く見えなかったということもございましたので、これが市の振興計画に繋がっていく並列の関係にあり、連携をしていく検討委員会であるということが、示されているかと思う。この部分は、のちほど具体的に各産業の目標であるとか、数値目標であるとかを設定する上では、非常にポイントになってくるので、この関係については、よく念頭においていただければと思う。産業成長戦略として、農林・住宅・水産・商工・観光と分野を超えた連携となっている。住宅を独立させているのか？ という話もあったが、それについては、今、独立をさせているということである。合わせて、商工・観光の部分はそれぞれ独立している、という位置づけである。このような分野に関する柱立ても、こういう形で検討していきたいという提案である。
- ・もう 1 点は、県の産業振興計画との住み分け、関係性に関しての意見、質問がでていたが、まず 1 点は、県の産業振興計画における、タイムスパン (時間軸) これとの整合をとるといふ、考え方が明記されている。
- ・高知県産業振興計画は、4 年と 10 年の数値目標をたてており、まもなくその 2 年が終わろうとしている。香南市の計画としてはそれと連動する、すなわち、2 年後、8 年後に関係して県の 4 年後 10 年後の数値目標を見本として考えていこうというスタンスである。

- それから、県の産業振興計画をフォローするのかそれともリードするのかという考え方については、当然、地域アクションプランで、「物部川流域の三市の一つ」ということは念頭におきつつ、アクションプランの数値目標に関しては、当然、常に考えながら、その目標年次との整合を図っていく。一方で、香南市が高知県のトップランナーとして産業振興計画をひっぱっていく。そういう面をもっていきたいという、提案がこの2ページに示されていることである。
- この後については、資料の3ページをめくっていただくと、2ページ目の下のほうにあるような、産業振興計画として、それぞれの分野の数値目標であったり、それを積み上げていった結果、香南市の8年後の成功イメージをどんなふうに描いていくかというような、「骨子の案」ということを議論していく。さらに、資料3の4ページからは、それぞれの分野を超えた連携テーマおよび分野別成長戦略事業について、具体的な現状と2年後、8年後に向かって数値を含めた、提案をしていただこうと思っている。かなり盛りだくさんの内容を紹介していただくと同時に、議論していただこうと思っているので、その点は、会議の進行にもぜひご協力をいただきながら、活発なご議論をとっている。
- まずは、「資料1」について委員の皆様から質問や意見があったら、どこからでも結構なのでいただきたい。

<質疑応答>

■委員

- 資料1の左側の香南市のランドデザインと香南市の産業振興計画の年次の見方について。
- ランドデザインは25年度～27年度まで3ヵ年かけて、策定をしていく。それから、産業振興計画のほうは、25年度に一旦計画として作りこみをしておいて、26、27年度はそれぞれバージョンアップをさせていき、県と同じ27年度を目標年次に行っているということ。
- 分野別の成長戦略で前回提示いただいたのは確か7分野であったが、その時に、商業と工業が分かれていたのを商工業の一本にしたこと。
- 住宅は当初の提案通り、住宅としてランドデザインとか意見の関係もあるので、独立をさせたということになるのか。

■委員長

- 質問と答えに関しては、その通りであるということ。1点目の質問に関しては、今後の産業振興計画策定の検討委員会のスケジュールとからんでくるので、一つ確認をしておきたい。
- 当初予定では、年度内にこれを策定をし、26年度から回していこうと。まさに今、委員からコメントいただいた通りで考えている。今日が2回目の会であり、この後、議論していくことになるので、ちょっと作りこみが25年度として十分なのか。さらに、まちづくりランドデザインの検討委員会においてもパブリックコメントをいただき、市民の意見を組んでいこうというスタンスがあるが、このあたりがちょっと時間的にすでに苦しくなっているというふうに思う。今の質問はスケジュールとからんでくるので、少しご回答いただくことにする。

■委員

- 策定業務の進め方について考えについて。当初、産業振興計画については、本年度取りまと

めをし、来年再来年は県との歩調を揃えるために、よりグレードアップをしていこうと考えていた。

- グランドデザインについては今年度基本構想を作り、来年度基本計画を作っていく。その中に、産業振興計画がリードする形で土地利用の方に反映をさせていき、3年目のグランドデザインをより実効性のあるものにしたい、というふうに考えていたが、庁内でもって各課、幹事会なき検討していく中、やはり、非常に産業振興というのは難しい。また、現在各課が抱えている問題も非常に多くあり、それについても、現在事業を進めながらやっているということである。
- 25、26、27年のいわゆる前半部分の産業振興については、これまでの市が計画をしてきたものを更に充実させることができるのではないかということで、庁内の意見を取りまとめ聞いて考えていたが、しかし、27年度以降の産業振興については、まだまだ十分にこの香南市の特性であるとか、あるいは、香南市の市民の皆さんの声であるとか、あるいは逆に、今後香南市がどのように産業振興を県のトップランナーとして本当にどの部分を担っていくのかというのは、たいへん申し訳ないが、まだまだ議論が足りてないと自覚している。
- 産業振興に計画については、来年度担当課を変えて、更に、今年度のたたき台を実現できる形にしていく。あるいはグランドデザインに反映させるために、土地利用を含めたきっちりとした具体的に方策をも含めて、来年度も検討していかなくてはと考えている。従って、来年度については、一旦、今年度で基本的な方向性は定めるが、それを充実するための、議論をまたこの同じ委員会でもって、進めさせていきたいと考えている。

■委員長

- 今年度この予定でいくと年度内にもう一回、この産業振興計画委員会開催予定ですかね。今日ともう一回開催をして、拙速に全てを決めてスタートを切るという考え方よりも、今の副市長のコメントにあった通り、まず決められるところから決めて、そして26年度をスタートし、県の産業振興計画では言っておりますけれども、ローリングさせていきながら転がしながらPDCAをまわして、そして、充実をさせていく部分を盛り込んでいくと、いうような形で26年度も引き続きこの検討委員会を開催していくという方向でよいか。
- 決まるところは決まる。そういう今回と三回目の検討委員会にしていきたいと思う。
- 繰り返しになるが、えい！や！で決めて市民の意向が反映されていなければ、プレイヤーとしては誰もいないわけであり、絵に描いた餅になってしまう。それは基本的には避けなくてはいけないと思うので、しっかりと議論と市民の声を拾い上げながらやっていくという考え方で確認をお願いしたい。その点でよろしいか。

■委員

- そのスケジュールでいくと、25年度は一旦、産業振興計画として作っておいて26年度は引き続き、過不足なものが出てくるのでそれを埋め込んでいく。不要な部分は省いていく。そういう作業を26年度もそれをやっていくということで。一旦は作りこみをしていくということで間違いはないか。

■委員長

- 形はつくっていくという方向を目指していくことで、間違いはないということである。

■委員

- 先程、副市長のいう意見では、来年度になると別の課に行うとあったが、計画はある程度こ

こで作るのであれば今までの流れから作っていき、各部署がその課を一つ真剣に取り組んでいくと考え方ではないかと。

- ・香南市の中で思うのは、商工水産課があるが、そこが大方、一手に観光まで担っているということがある。本来、香南市が観光を重点に置くとすると、商工水産ではなく観光課というものがないといけないのではないかと。全部が連携してやるけれども、一つの課が全部それぞれをもって出来ていないから、今のように、なかなか一つ一つが出来ないような気がする。その辺を将来的にみるのであれば、その考え方が企画課になるのか商工水産課にもっていくことがあっても、計画としては今の部署から取り上げていき、各部署のこの課は真剣にこれを頑張ろうという感じでないかと、なかなか将来設計には到達しないのではないかと感じる。

■委員長

- ・今の提案について、どうであるか。

■委員

- ・現在、産業振興計画は、そもそも市の構想については語弊があるが、市全体の基本的な考え方を取りまとめ、なおかつそれを各課で実際に事業に移していける、母体となる計画作りを進めるよう、今年度は行いたいと思っている。
- ・以降については、それを充実させるために担当する各課、香南市の場合は、7部署になるが、その7部署を担当する課が幹事会になり、その課の中で産業振興を取りまとめる組織を作りたいとおもっている。その組織を運営するのは、産業振興を計画する部署になるかと思うが、実際に動くのは、全てこの産業振興にかかる担当部署が参加することになる。
- ・今回と何が違うかということ、今、委員から指摘があったように、各課が実際にこの計画に基づいて各課の事業を進めるということ。あるいは、現在各課が考えている産業振興についての事業全て連携をさせていくために、一箇所で統一的な振興計画にまとめておく、この二つをより具体的に進めたいと思う。

■委員長

- ・はい、どうぞ。

■委員

- ・1ページ目の「香南市まちづくりランドデザイン平成27年度策定予定」の各分野の中で、「生産量の半分以上を担う稲作の価格低下」によるというカテゴリーですが、生産量というよりは「栽培生産面積を半分以上担う」、稲作という言葉よりは、ここではカタカナの「コメ」という言葉が適当ではないか。コメの価格低下。
- ・二つ目の○の「家族経営の経営能力規模や施設園芸の収穫時期の集中によって」となっているが、それを、「施設園芸の収穫・出荷・荷造り作業の労力不足によって栽培面積の拡大が困難である」。現実には、そういった捉え方をしているが、そのカテゴリーはいかがであるか。

■委員長

- ・文言に関してはどこでオーソライズされたというものではないので、あくまで、まちづくりランドデザインの検討委員会の中で、出てきた内容を少し箇条書きにただけである。今の、委員の修正案というのは、そのまま反映することができるかと思う。もし、他にも分野の中で、農業以外の中で修正する部分があれば、申し出をいただければと思う。
- ・特に今の「収穫・出荷・作業の労力不足」というのは、具体的に課題をいうので、そういっ

たところがこの後の、計画に反映されていけば、かなり最初に大きな目標を立てていく上では、有効な話になっていくのではないかと思う。

- それでは、私のほうから。先程、委員から庁内の担当課をどうするか、あるいはこの計画策定自体をどこが所掌するか、来年度以降も修正しながらやっていくという、副市長からのコメントがあったわけだがこの点は非常に重要だと思う。県の場合は、農業振興部それから林業振興環境部、水産振興部というような形で、農林水、商工労働部があって観光振興部があってそこに横串をさして産業振興推進部を新たに平成 21 年度に作ったわけである。作る時には、まだ産業振興推進部はなかった。そういう中で策定へと動き始めてから担当になっていく、市の場合には課になるかもしれないが、それについては市として、どのようにもっとも効率よく進めていくのか考えてもらいたいと思う。
- 一方で、是非考えてもらいたいのは、これは市が行う事業ではない。市民がプレイヤーであるから、よく知事が 5W1H を明確にして、誰がやるんだと、何故やるんだと、何処で何をやるんだと、というようなことを、どのように行っていくかを、当事者としての事業者また市民がどう考えるかというのを、明確にしておかないと、得てして市の担当課がきわめて明確に縦割りに住み分けをしていけばいくほど、その市民目線から見た時に横の関係が不十分になるというようなことも出てくる。この点はぜひこの検討委員会のメンバーの皆様と共有していきたいと思う。
- 今後は、市のトップダウンでこうしますと、それを市民が受け取ってその通りやっていくというよりは、県の産業振興計画の作りこみの時の話しを前回しましたように、やっぱり、しっかりと分析をした結果何をやるべきか、これをプレイヤーである市民あるいは産業界が、こうするんだと自発的に能動的に受け止めて、目標を積み上げていく。それが、あるべき姿なのではないかなと思う。そういう意味で、各分野の産業界の地域の皆様、リーダーの皆様方がここに一同に介しているのも私自身は理解をしている。
- 一通り踏み込んで議論をと思っておりますので、次に話題を移させていただき、もちろん「資料 1」については、これで決めたというわけではなく、さらにもどって議論をしていくということをやりたいと思うのです、一通り今日用意をしている、資料の説明を受けたいと思う。

議事 (2) 香南市産業振興計画の骨子 (案)

■事務局

～資料 2 香南市産業振興計画の骨子 (案) について説明～

■委員長

- 3 ページ目について骨子 (案) ということで説明があった。
- この資料のフォーマット自体は、県の産業計画を参考にしているという内容なので、県の産業振興計画をご覧の皆様にはおなじみの図ではないかと思う。
- 一番上に成功イメージを長い時間軸で示している。ここのポイントは 1 点。前回、委員の中から、例えば香南市の人口動態が、県内唯一人口が増えているというような説明を受けた後で、自衛隊の誘致というような特別事情で増えている補足説明があり、そこを引いていくと、やっぱり同じように人口減少しているんじゃないか。それから香南市は中心部からのベッドタウンという位置づけも非常に濃いということがあって、その目指す方向として、ベッドタウンなのか、それとも地域内において雇用を生み出す活動をやっていくのか、どちらを目指

すのかという質問があった。

- それに対して私は、ここで明確な答えをだしているんだと思う。つまり地産を強化すると書いてあるので、隣接する高知市や南国市のベッドタウンで充実をしていく考え方よりも、後者のこの域内における価値を最大にしていって、おそらく域内での雇用を生み出していったり地域経済の活性化を目指していくんだと、明確にうたっているという、大きな提案があるということに、まず注目をいただきたい。
- これを成功のイメージとするもう少し夢に近いということになると、目標がより具体的にでてくる。それが例えば、計画全体を貫く目標ということで、住みながら働く場、住と職がバランスよくあるという、これが非常に重要なところで、域内で全てが完結しているということかと思う。
- 目標2の部分は特に「一次製品の安定生産の体制づくり」。基盤産業を一次産業にしていくということが、ここに明確に書き込まれている。それを下って試みていった時に、各分野で、マイルストーンという言葉を使いますが、例えば8年でいきなり目標を実現するのは難しいので、1年1年、あるいは2年毎にどうあるべきか、というのを数値目標で切り刻んでいって、結果8年たったときにはここまできている。というようなものを数値目標としてさらに掲げていって行く。もちろん、8年後の数値としても書いていくと、ということがここに一つ提案をされているものである。
- この間に地域住民が元気に働けるバランスのとれた持続可能な産業構造を構築する、あるいは学びの段階から事業化までの多様なサポートにより実践者のチャレンジを応援する。産業構造と人に対するソフト的なサービスというか、内容をここに盛り込んでいる、という作りになっている。
- ここでまず、骨子として皆さん意見を賜りたいのは、市として域内で価値を生み出すと、これを明確にするということについて、どう考えるかということ。分野に関しては前回のものに少し意見を反映しながら、県の部局に揃えている。そろえるのがいいのかそろえないのがいいのか、ちょっと解からないのですが、ただ、県の産業振興計画を、ご当地がひっばっている、ということを目指していくのであれば、わかりやすいのではないかと思う。
- 複数の分野にまたがって成果がでていくと、見ようによってはこうだけど、まとめるところであると思うので、香南市としてのこれからの明確なポジションを示すには有効な方法はないかと私個人では思う。
- それからもう一点、地域活性化策ということで、市民や地域団体企業等が主体となり、進める地域活性化策ということで、各地区の住民の代表の皆様にごここに集まっています。地域の住民の皆様がという主語が、県の産業振興計画の場合は若干薄くなっていて、集落活動センターの取り組みなどは、そういった地域住民の方が主語になって、取り組みがスタートしたのが見えるが、より市と一体感を持ち、この振興計画を進めていく企画をする地域住民目線というのが、県の産業振興計画とはちょっと違う。非常に特徴が出やすい部分ではないかと思う。
- ポイントとしては、今のようなところに注目をしていただき、少し意見を賜ればと思う。

<質疑応答>

■委員

- 骨子（案）のところ、「地域住民にいつまでも働くことのできる香南市」の2行目の左のと

ころの「資産の拡大を図りたい」を、「産業の拡大を図りたい」と、産業という言葉がふさわしいかと思う。

- 下段の「分野を超えた連携」のことで、①6次産業化による地産地商の徹底。ここでいうなら、地産外消であったら「商」あきないですけど、地産地商なら消費者の「消」でないかと思う。

■委員長

- まず1点目、資産の拡大というのは、私もマークをつけていて、少し違和感があるなど。ここは産業の拡大もありうると思うし、外貨獲得に向けた、付加価値化に取り組むことで、域内における資産価値の増大。あんまり資産、資産というと不動産とかそういうイメージも出てしまうので、ここは資産という言葉置き換えておいた方がいいかと思う。
- 産業の拡大だけだと、地域という視点から見ればどうかということもあるので、指摘いただいた部分は非常に大きいところであるので、修正案は考えるということで受け止める。
- 2つ目の、黄色い横串をさしている①の地産地商。ここは事務局として、いろいろ考えたときいているので説明をお願いします。

■事務局

- 地産地消の消の字が「商」になっているということで、説明が十分でなかったことは申し訳ない。11ページに「分野を超えた連携テーマ」として、中段の横軸に3点を記載しており、連携のテーマの一つに、「6次産業化による地産地商の徹底」ということで、「商」の字を当初、幹事会では普通の「地産地消」で提案をしていたが、いろいろ意見もあり、※の所に説明書きを加えている。地産地商については、「いわゆる地域内だけの地産地消ではなく、地域で生産される生産物農産加工物を地域が一体となって売り込んでいこうという考え方」の中いわゆる「造語」という形にはなる。地産地消から一步踏み込んだ、県でいう「地産外商」の部門までを、市のほうがまだ走り出した計画の中で、地産外商と市が言って、市がどうやっていくのかというのは非常に辛い部分もあり、苦肉の策として「地産地商」という造語を用いた形で、今回は提案としている。

■委員長

- まずは、ミスではないということ。考えがあるということ、それと、今の字はどちらが適切であるかということよりも「市がどうありたいか」というところから、結論として、どういう字を当てるかという考え方にしないといけけないので、ここは指摘があったということで、大きいところからとらえていく必要がある。
- 地域内で「地産地商」で「商う」ことになっていくと、地域内流通で、いろんな意味でお金がまわっていき物がまわっていく。ある意味いい言葉でいうと、域外にいろいろ逃げているものを域内にとどめておく、機会損失の防止であるとか雇用機会をそれによって創出する。それによってというようなことが一つ目指すべき方向ではないか。こういうことになってくると、その現状認識が非常に大きくなってくると思う。
- 域内総生産がどれぐらいあって、産業連関表で解析すると、どういう業態にどれだけの競争優位性があるか、域内収支を見ていかないといけけない。それを現状認識したうえで、8年後にどう目指すかというのが、当然必要になってくる。今を理解していない状態で、将来目標、数値これは立てられない。

■委員

- 先程の冒頭にかかっている部分がそこにかかっていると思う。産業連携を考えるまでが短時間で出来るかどうかまだまだ十分ではないが、人口フレームにともない産業フレームという香南市の地場産業の有り方を数値ではっきりと、将来目標を含めた目標値をぜひともやりたいと思っている。

■委員長

- 委員の皆様にごここでお伝えをしたほうが良いとあえて思う点を話をしたいと思う。
- まちづくりグランドデザインの検討委員会において議論している一つに高台移転がある。最初は高台移転としたが、高台移転としてしまうと、全てを高いところとなるので、津波予想地域のマップを見ると、香南市の場合は沿岸地域から内陸に移動すると、内陸は津波浸水の範囲に入っていないと。例えば、今の庁舎周辺は津波浸水予想地域には入っていない。となると、高台移転プラス内陸移転もあるだろうと。
- 沿岸部の各地区の最近の人口動態とか要配慮施設、病院であったり特別養護老人ホームであったり、学校、保育園といった優先的に配慮していかなくてはいけない施設がどこにあり、その施設を優先順位としては高く設定していかなくてはいけないのではという意見も出ている。
- これがもしかすると、全体のきっかけなる可能性もある。つまり、内陸あるいは高台に移転することによって、その施設が移転していった後が空く。空く地域がもしかすると、例えば、先程、委員からも説明修正案がでてきたが、仮にその「収穫・出荷・荷造り作業の労力」が必要な部分までいって、それによって耕作面積・栽培面積を拡大したとなった時の用地確保の問題。そこで、そのような土地は利用できるのかもしれない。いろんな規制がらみ、規制改革がらみの話、特措法の関係も動いてくるので、いろいろと構想を立てていくと、移転とその後の産業利用というのが、両方実現する可能性もあると思う。
- そういう意味で、ここは非常に大きな、まちづくりグランドデザインの検討委員会の議論、産業振興計画委員会の議論が密接にリンクすることによって、将来の香南市が描けるビジョンが全く変わると思う。
- こういうことも念頭において、全体最適化していくのが委員の皆様にご課せられた大きなミッションになっているのではないかと感じるところである。これは非常に大事な議論になるというところをぜひ紹介したいと思ってあえて説明をした。今の説明も含めて、ご質問・ご意見をいただければと思う。

■委員

- 委員長もこれからの香南市がどんなスタンスでいくのか、高知市、南国市のベッドタウンでいくのか、ここでモノを作って発展していくのか二つの方法があると。結論は大方出ていると話していたが、全くその通りだと思う。基本はモノ作り、農業・水産・林業・あるいは商工業これが基礎となってサービス業、金融面を含めて進んでいくのでそういう方向で賛成である

■委員長

- 根幹に関わる意見をいただいた。他にもどんどん意見を上げてもらいたい。
- いろんな視点から香南市を愛しているお立場で、私は地域住民として見た時に、我々のスパンはどうしても短く考えてしまいますが、地域住民がいつまでも働ける、また時代を担う若

者がと書いてあるので、子供たちを身近にご覧になってる皆様が、将来どう託していくのかという視点も重要だと思う。是非、忌憚のないご意見をおきかせいただきたい。

■委員

- ・香南市の人口を増やす場合ということで、人が増えるということは住宅も増えるということになる。こういう方向で野市町は人口増加に努めてきたけれども、一部、今までの住民から、これ以上住宅は要らないという意見がある。これは、昔のような静けさがなくなったり優良農地がなくなったというのは、一つのネックになっている。
- ・農業の場合を考えると、優良農地、ちょっと離れた便の悪い農地はどうしても仕方のないことだが、道の縁にある優良地をどうしても確保していかなくてはならないと考えている。集約的にこの農地を集めるのにはどうしたら良いかと。農家の土地に対する考え方、これも一つ転換していかなくてはいけないと思う。
- ・農家というのは、非常に土地に愛着を持っており、使わないところでも他人に売買をするということを非常に嫌う。そういった点でも考え方を変えてもらい、売買するのではなく、貸与することによって、これから図っていけると思う。
- ・さらに農家だけではなく、今も言われている企業の参加。これは避けて通れないところだと考えている。野市町の場合も、建設会社のニラの栽培が軌道にのっており、自営調査におきましても非常にいい結果を残している。順調に残していければ雇用にも関係してくる。
- ・農業の場合、一番雇用促進があるのは、ニラとシシトウである。ニラの場合は、荷造りとかに手が必要になる。その場合もシシトウで生産した後のアップ詰め、これにもかなりの人数が必要である。そうすると、また雇用が再生できると。この一つのラインで進めているが、やはり、二面性をもってこの計画を進めていきたい、農業者の立場としてはそのような考えである。

■委員長

- ・委員は野市地区の住民の代表であると同時に、JAとさかみの立場という発言で。非常に貴重なご意見をいただいた。
- ・委員の話にはヒントに満ち満ちていると思う。つまり何が問題かというのが、かなり具体的に出ているものがあるとすると、それに対するソリューション課題解決というのは、これだけの立場の方が揃っており、市長が市のリーダーシップのもとあつという間にこれが実現できる可能性があると思う。
- ・もう一つ、「収穫・出荷の人手」の問題についても、序々に今、工業界の方々が、農業生産あるいは農業の作業に関する、モノ作りで関わりたいと思っている。もっともっと現場レベルでモノ作りと二次産業と一次産業が連携していけばというような話が、ここから出て行くのではないかと思う。
- ・ぜひ、現場レベルでの話というのは、県の産振の時の各農業分野での専門部会では、なかなか細かい話はできないと思う。また、地域アクションプランのほうは、これまた分野が広すぎて話ができない。ここからリードしてき、県の産振を、こういう議論をするのだというお手本を示したら非常に実効性のある、計画に落とし込める、というふうにも感じた。

■委員

- ・ランドデザインと産業振興について、ランドデザインのほうがハード面、振興のほうがソフト面という形に言われているが、ハードとソフトの連携とある程度のものが、見えてこ

ないことにはその辺の議論もなくかみ合わないかという思いがする。

- ・各課の幹事が幹事会をやってそのまとめを担当課が行うという話だが、担当課がその幹事会でかかってきたものを、そこから仕事をするのは担当課だと思うが、ゴーサインを担当課だけが了解して行えるものなのかどうか、という懸念もあるが、そのへんはどうなのか。

■委員

- ・ソフトとハードと明確に分けていたがその通りで、先程から話がでてるように、産業振興のために必要な施設や用地がある、それを用意するのがランドデザインであると思われるので、しっかりと香南市産業これからどうしていくのか。それに答えたランドデザインや用地は具体的にどう作っていくのか、先ほどの話のように、保全すべき農地と一定の土地に事業転換をする用地と用意をして、新しい産業用地を生み出していく。そういったことが両方、常に語られていないとなかなか難しいことだと思う。
- ・また、進め方については、幹事会各課が出来たものについて担当課がとりまとめていくわけだが、同じようにこういった産業振興委員会を回るようにして、市長への答申をもらっていききたいと考えている。

■委員長

- ・まずは、出来るだけ上げていくことは大事だと思う。上げていかなければ、声として伝わらないので、いろいろな視点から可能性のあるものを上げていくことは必要だと思う。
- ・続いて企画内容については。

■委員

- ・市民を無視してはいけない。市民の意見を拾うとあったのだが、市民意見を拾う手段と方法はこういったことを考えているのか。

■委員

- ・この計画が一旦出来上がったならば、まずは地区懇談会に持って行きたいと思う。それから、現在出来ているところについては、町づくり協議会等を考えている。
- ・市民・地域ということについて。地域については、それぞれ意思をもった方々が、探り当てていく。それは私ども行政のほうから、進んでいかななくてはいけないと思うので、その際にはぜひともJAの皆様にも、商工会、観光関係の皆様にも相談をもちかけて、それぞれの主人公になっていただけるような、企業および地域住民の方々に行政のほうからのアプローチも進めていきたいと思う

■委員

- ・夜須町で二ラを作っているが、先程も言われた通り、二ラというのは、雇用の確保が一番大事で、雇用の確保さえできれば、面積もまだまだ増やせるし、生産量もアップして生産額も上がり、それで農家が良くなってくると、若者も後継者も出来ると思う。
- ・今までも見てきて、耕作放棄地がかなり私の土地の周辺にもあるのです。それをなんとかしないといけないと思う。具体的な案はないが、ハウスの面積をもっと増やしたい時に、そこをなんとかやれば、まだまだできるんじゃないかなという思いはしている。

■委員長

- ・それも、非常に参考になるご意見だと思う。私がもう一つ感じるのは、県の産業振興会のフォローアップをしている立場で、平成20年度からずーっと言っている話でもある。
- ・耕作放棄地が多い。それから就労者の高齢化も進んでいる。就農者を増やしていかななくては

いけないという年間 135 人とかいう数値目標を立てて、それをクリアしているということになっているが、現場では、さらに耕作放棄地が増えていると。このJAとさかみ管内における二つというところでは、まださうとう可能性があるということ、今それぞれご発言になっている。ということは、県の施策が十分に機能していないというふうにも聞こえるが。

■委員

- ・JAも、まだその取り組みが十分できていないところもある。しかし、これを支えてもらう行政の支援体制。こういったものも何かちぐはぐなところも。
- ・実は、①による6次産業による地産地商の徹底。もう少し言いたかったのは、私はこの香南地域においては、あくまで一次製品の安定生産の体制作りを進めていくのではないかと。
- ・成果を成長戦略として、地産外商で商いをして外貨を稼いでいける、今ある主要品目、ブランド品目をさらに消費地に向けて発信をしていく量を確保していくそういう体制作りをしていかないと。
- ・6次産業化そのものを否定するわけではなく、今、時代の波の中でそういうことも売れる、モノを捨てるものを6次産業に持っていくということも大変である。しかし、香南地域においては、一次産業をもう少し伸ばしていける要素があるわけなので、それに力を入れて取り組んでいただきたいという思いで、私どもは考えている。

■委員長

- ・二つ意見をいただいて、資料3の農業分野からどのように、8年後の目指す姿を作っていくかところで、参考になる発言をいただいた。
- ・6次産業化を否定するわけではないよという委員のコメントのように、6次産業化だけが、日本の農業をこういうふうにいざなうという考え方はやはりまたリスクもある。バランスも含め、たとえば価値としてあるものをどこまで価値として訴求していけるかという話の中で、いち手段として、6次産業化というのは当然あるし、目標は大きなところにあると。その手段の重要な部分で、今ある二つをもっともこの基盤を利用することによって、価値、資産を上げていけばいいのではないかということだと思う
- ・この部分も非常に今後の参考になる話なので、少しずつ議論が活発化したと思う。

■委員

- ・一次産業の中で、農業はある程度補助金もでながらやってきたが、水産の面が観光の面でもその辺がものすごく弱い。香南市としては夜須町の時は、生き残るためには観光ということもメインにおいたのだが、実際、ヤ・シィパークで売っていても水産面がものすごく弱い。ヤ・シィパークを作る時から漁業関係者に協力してくれとお願いしているのだが、なかなかそれができなく、夜須だけの水産だけでは、シィラの加工とかだけで終わっている。
- ・観光客が来たらやはり、海岸沿いにきてヤ・シィパークへ来て、海産物を買いたいという要望もあるがそれができない。バランス的に農産物が多い。
- ・今の中では、売り上げでもヤ・シィパークの中では3億7千万円だし、全体でも38万人が来場している。道の駅としては、高知県ナンバー1だと思うのが、ただ水産が弱くて、魅力が香南市の中のバランスがとれたものでないのは確かであると思う。
- ・担い手となる若い人がいないのも確かで、土佐湾の目の前で、大きいところは大きい網でとっており、沿岸の上での養殖をするのか。海洋養殖をやっているところは数軒あるが、そう

ということもバランスの中では考え、水産が観光にも結びつくという形も真剣に考えていかないといけないと思う。

- 合併する中で夜須町の人口はなるだけ減らしてほしくなかったが、実際、夜須からも野市へ人が移っているし、子供たちも野市の小学校や中学校へ行ったりしているのが、現実である。今、4千越えていたのが3千ちょっとになり、これ以上減るのはきびしい。香南市の中では野市に人が集まっているという。町全体は、バランスのとれた町づくりで今までの自然と全てが、あるような町づくりにしてほしい。
- 南国安芸道路が野市まで延びるので、車で5分もかからなくなり、野市で仕事をして買い物をして、夜須に住む、というのでもいいんじゃないかと思う。土地代も安いでし。ぜひ地域の中で、人口流出をさせてほしくない。
- 教育の面があまりにもないので、人づくりの教育に、子供たちがここに住みたいという魅力がない限り、産業だけ走っても人が居ないとダメである。子供たちがここで育って教育を受けたいと思うような、そんな町づくりもこの中に入らないと、人手が足りなくなり、外国からの人を呼ぶようなことにもなるのではないかという気がする。

■委員長

- 委員から水産の話があった。私も水産庁の強い水産支援事業の有識者員をずっとやっており、この間、手結漁港を水産庁の方と訪問してきた。冷凍施設の拡充であるとか現場の抱えている悲痛な声というか要望というのもそこで聞いてきた。水産庁事業でハード整備もありうるので、産地協議会を作りそれで支援をしていくということハード、ソフトでやっている。
- 現状としてどうか、今はどうかと声を上げていただいて、網でという話でしたが、このへんは定置網漁もない。もしかすると、今は原油の問題もあるのでおこなっていないのかもしれないが、昔は網漁あったと聞いているのでそういったことも含めて、市の産業振興計画として大きな視点で考えるのであれば、いろんな企画立案もできると思う。
- 農産物についての6次産業化については、さっきのヤ・シパークの話からいくと、これは水産業における6次産業化、ブルーーツリズムなんかを組み合わせることでいくことによって、誘客をはかり、域内でとれたものの価値を最大にしていくというこれは一つのモデル、もっともっとやっていく価値があると思う。
- 教育に関しては、県立高校の再編ということで、最低規模とか適正規模とか何年後に廃校になる可能性があるのかななどの会議に携わってきました。そのときでも、各地域からきわめて貴重なご意見を、悲痛な声を聞き、各日本全国の事例も現地にいたり視察をしたりしている。その時にやはり、教育拠点が失われるということは、もう若者の人口流出を促進することになるので、防波堤が絶対に必要。そのため、教育の話もきわめて重要な話であるということで、まず意見としてきちんと受けとめていきたいと思う。

■委員

- 香南市の農業委員という立場から。耕作放棄地という問題が非常に深刻な問題として農業委員会の中でもとりあげられている。耕作放棄地というのがなぜあるかという話し合いもしたが、やはり、近年、機械の大型化ということが第一にあがってきている。水路、農道等の整備がなされていない地域が、かなり多くある。それで耕作放棄地がでてきている。
- ジャンボタニシの被害がここ最近多くなってきている状態である。10aあたりの田んぼで全滅というところがポツポツとでてきている。ジャンボタニシの駆除は非常に難しい。そうい

う田んぼに関しては放棄するしかないというのが現状である。駆除に対する補助金とか考えないと、耕作放棄地というのはこれから増えることはあっても減ることはないだろうと思う。

- ・農道と水路の整備というのはこれからも絶対やっていただかないといけない。小さい機械は入れるけれども、大きい機械は入らないという田んぼがまだまだある。
- ・高齢化にともなって田んぼを貸したいけれどもという声は農業委員や農地バンクなどにもでてきているが、借りたいけど機械が入らないということで、借り手がないという耕作放棄地も増えているので、こういったのも問題があるのではなかと思う。

■委員長

- ・具体的な課題を解決する方策についてもコメントをいただいた。県の産振でもアクションプランの関係で、議論はしていると思うが、そこはどうであろうか。現場レベルでみたときに、当然県の立場と市のアクションプランとして、連動しておかないといけないと思うが、やはり現場にずっとフォーカスをあてていくと、中々現場レベルまで、まだいっていない部分とか、さらには施策として講じないといけない部分であるとか、多分にあると思う。これをどういうふうに、県として捉えているのか。

■委員

- ・先程、委員さんからのジャンボタニシの問題は、一つの施策として補助制度を作っていくことからスタートするのだと思う。それを地域アクションプランに結びつけるというと、地域的にどんな課題がるのか。たとえばジャンボタニシが地域的な課題があって、それを地域としてどう解決していくのかということが、結びつけば地域アクションプランとか、香南市の地域産業振興課でいえば、地域活性化策と結びついていくかというだと思う。
- ・一対一の関係なのか一対十の関係なのか。その地域的な広がりを持つていけば、地域活性化策、地域アクションプラン、産業振興計画と広がりをもっていけるかと思う。
- ・いづれにしても、どういうふうな形で課題を解決するか、農業であれば県の農業振興センターであるし、そこから課題に対して、こういう指導があったらいいとか、栄養指導があったらいいとか、いろんな形で施策をとっていく方向にあるかと思う。

■委員長

- ・計画をつくっていく、解決策を企画してその解決に行き着くような予算を含めてプレイヤーも含めて、それを議論していくというところも、現場サイドからみれば必要で、それは、産業振興の策定というところから見ると、非常に現場に張り付きすぎているように見えるけれど、市で産業振興計画を作ることから見え出しているわけですから、まさに一丸となって、議論のまな板にあげていき、どこでどう連動していき、具体的な予算とか誰がとかが見えれば一気に解決につながっていく可能性が見える。今のような話もきちんと受け止めてほしいと思う。

議事 (3) 分野を超えた連携テーマ及び分野別成長戦略の事業について

■事務局

～資料3 分野を超えた連携テーマ及び分野別成長戦略の事業について説明～

■委員長

- ・住宅については、ここでたたき台を初めて紹介をした。
- ・幹事会と称している香南市の担当課と各種団体といったらいいのか、その一番関わりのある

方々との協議の場、これが非常に重要だと思う。具体的には団体等の方々の議論を経ているものはどれか。

■事務局

- ・具体的に民間、団体レベルとの方々との動議を経てというのは、わずか一部であり、全体としては、今回ここにはない。

■委員長

- ・これが2年後、8年後の目指す姿の定量的定性的に表現したいということを含めて、一つの案である。
- ・これをこの年度内で、どこまで幹事会としてもんでいくのかが、一つポイントになると思う。それと先程も意見に出たように、どこまで市民の意見を反映できるか。ここもちょっと時間を要するけれども、実際に担うプレイヤーは市民の方々なので、非常に重要だと思うが、そのスケジュール感をどのような方法でやろうとしているかは、伺いたいと思う。

■委員

- ・担当課でもってまず、行政ができること。本年度、来年度、再来年度行政としてどのようにしていくか。というのは庁内の中でも決まっていない。
- ・先程、委員が言われてように、産業人口というのは、水路が駄目だから水路を直せばいい道路を直せばいいという行政の縦割りのものだけでは十分にやっぱり成果はあがらない。そのためには、地域みなさんに、産業を振興して農業を活性化させるために、子供を作る人づくりからであるだろうし、住みやすい環境をつくってそこで働ける環境をつくるという居住環境づくりであるだろうと。
- ・よりより生産交流ができるようなエリアと作るための土地のまちづくりであるとか。そういった総合的なものが揃って、はじめて地域の産業振興がなりたつのであろうと思う。そういうのが重々わかってきて、そういう意味で、これまで行政ができる一つ一つみなさんからご指摘をいただいたものはできる体制を整えていくが、それらを総合して、地域の皆さんがほんとうにどのようにこの地域に住み続け、地域の産業を活性化していく、将来の姿にむけた香南市独自の県のトップリーダーとなれる地域の産業振興だろうと思う。
- ・そのためには、これから、各担当課を通じて実際の農林水産業の関係者商工の関係者の方々と協議の場を持ち、地域と行政が一体となった新しい産業政策はどのようにすればいいか。その前提として今、行政としては全体として細かな事業新しい事業を考えている。
- ・それらを共にやるために、どのように産業振興をやったらいいのかというのを、本来ならば本年度中にやるべきことではあるが、引き続き来年度もそれを続けさせていただきたいと思う。

■委員長

- ・ここはやっぱり実際に担って行かれる方々が協議に参加をし、積み上げていく。これは、県の産業振興計画の策定のときも同じプロセスを踏みましたが、当事者として思いをもって関わっていく。これをなくして計画の実現というのは、ありえないと思う。それを市としては、さらに汗をかいていただき、また現場の皆様にも積極的にそこに関わっていただき、まさに今、意見も出ていますが、そういう意見をぶつけていただいて、全体として最適化をする。これをぜひ検討していただきたいと思う。
- ・元々、県の産業振興計画を作ったときには、10年の数値目標なんかは、立ててなく3年の

計画を最初に、次に3年をローリングさせながら、次の2年、次の4年と10年をたてていくということを行った。一気に10年、8年とする数値目標をとというのは、これは中々むずかしい部分もあると思う。仮に、時間的な制約があるとしたときに8年後の目指すイメージは共有をしておいて、ロードマップ上ではこの2年。そして数値目標としては、2年をつくる、というところから始めても、決して問題はないと思う。

- 今日の実質的にここまで踏み込んでいけなかったが、まずは、こういうたたき台に沿った形で、市と市民と民間ベースと幹事会でしっかりもんでいただき、まずは全体的の目指す姿、2年後の目標これを出来るだけ早急に固めていただく。ここから、その後の8年の数値目標等が見えてくるのではないかなと思う。
- 農林水商工、特に農・水に関しては、それぞれご意見もいただいたが、林業に関しては今日委員がご欠席なので、話が聞けていない。
- 商工に関しては、香南工業団地がいよいよ誘致に向けて動き始めるということもある。いずれにせよ、非常に大きな目がでているので、この部分も空き店舗とか6次産業化の話もからめて、活発な議論をお願いしたいと思う。
- 特に、商品売っていく販路としてどういう場かということで、さっきのヤ・シパークの話もあったが、一方で、新庁舎の話がまちづくりランドデザインの中に出ており、市役所の機能に加えてプラスアルファの機能を考えていこうと議論もある。そのプラスアルファの機能の中にどんなものが考えられるか、今から計画を作っていくわけだが、いろいろな案がでて、場が舞台になってくると、それを新庁舎にうまくドッキングさせるということも、場合によってはありうると思う。そういうところも、お考えをいただきたいと思う。
- 観光に関しては、水産のところでもでてきましたし、非常に多くの可能性があるだろうと思っている。
- 今日はまだ、住宅の話はぜんぜん出来ていないが、災害に強いまちづくりの話がかかっており、このあたりもしっかりとした議論をしたいと思う。
- 地域活性化策に関しては、中山間の対策で集活センターの話もあり、産業人材を育てるといった話もある。こういったところも県の施策とからめながら、ぜひ考えていただきたい。その場合、誰がというこの部分の話が、現場レベルで非常に重要なので、ぜひその部分も議論に添えていただければと思う。
- 今からやろうとしているのは、資料1・資料2・たたき台をもう少し今日いただいた意見で固めていく。それに連動して各分野の目指す姿、それから2年後の目標等を具体的に定量的定性的な目標を掲げて行きたい。これが、まずもって産業計画振興検討委員会で、必要とされている協議内容かと思う。
- 次回に向けて幹事会がセットされると思うので、各委員の皆様にはその幹事会にもかかわっていただけたらと思うが、そこでの意見をぜひ反映いただき、そこで第三回目の産業振興検討委員会で案をとるような作業がいくつかでもできればと思う。それによって26年度に少し具体化されるのではないかなと思う。そういう持っていくかたでよいか。
- 第二回から第三回にむけて、またお力添えをいただかなくてははいけない。

■委員

- 4ページの「現状の姿と農業分野」ですが、「農家の高齢化・担い手不足」。さきほど1ページのところで、ランドデザインのところの農業の労働力不足を提案した関連が、ここにな

って手段と対策としてここに入れておかないとおかしいと思う。

- 農家の高齢化担い手不足の後に、労働力不足を入れるのかどうかを別にしても、農業の振興促進の中に雇用促進事業、やはり農業以外の労働者をどうやって香南市のほうに労働提供ができるか。そんな点を労働振興のところに入れるべきかどうかわからないが、そんな点も一つ考えておいたほうがいいかと思う。
- 2年後の目標、認定農業者数 25 年度に 3 人、27 度に 5 人とありますが、これはあくまでも再認定を受ける方を含めてのことなのか。それとも新たな認定農業者のことなのか。
- 新規就農者数 5 人は少ない。最低でも 10 人、今年も 10 人越えているので、5 人という消極的な数字をだしては、労働者の高齢化・担い手不足をカバーできない。もう少し、新規就農者数を、農で働き香南市で暮らすというそういった新規就農者数の 2 年の目標はあげてチャレンジをしていくようにいくべきではないかと思う。

■委員長

- 先ほどの認定農業者数は新規。それと、新規農業者数年 5 人、まさにその通りで、私も感想としては将来の夢を描いていく市民としてやる気をもって目標としてかかげていくそんな数字になっていないと、計画としていかなものかなとコメントもした。委員の思いと全く一緒である。
- ただ、ここを作りこんでいく時の作業というのは、行政的というと数値目標をかかげてしまうと絶対クリアされないとなかなか苦しいところが出てくる。どっかで落とすところを見つけないといけない。ハードルを下げると魅力は半減してしまいますので、ぜひ、先ほどの幹事会が大いなる議論の場となりますので、委員もそこでもまた積極的なご意見をお願いしたい。
- 今日の第二回目の策定委員会閉会にむけていきたいと思うのですが、その他は、市長にコメントをいただきたいと思うが。

■委員

- 今後、各関連の皆様、幹事会のメンバーで協議をもたせて、この計画に反映する会をなんとかもたせるのでよろしくお願いをしたい。

■委員長

- それでは、閉会にあたりまして市長のコメントいただければと思う。

■市長

- 委員長からもたびたびありました、この産業振興計画、なぜやるのかどこがやるのか、誰が主役でやるのかここが肝の部分である。
- 今日とは二回目の会ということで、副市長からも今後の行政の幹事会と各いろいろな団体の皆さんと色々な意見交換をもって、その中で計画を練り上げていく作業というのができるか、実際にその計画が動いていってまた効果がでるのか、といったことにもなるので、その面よろしくお願いしたい。
- 例えば、農業と林業の場合、計画の内容に差があるが、なぜかと問われた時に当事者の皆様の意識の差があるのではないかと考えている。執行部のほうも今後、団体関係者の皆さんとも、色々な意見交換もさせていただきたいと思っている。
- 耕作放棄地とか、水産業とか、こまわりがきいて市からできるということがいろいろあると思う。そんなことも市の産業振興計画で、具体的にできていくと思うので、細かい提案もこ

ちらからも投げていきたいと思う。

- 10ページの地域活性化の取り組みというのは、非常に解かりにくい。このような形よりも、今日の各5町の代表の方が、その町で、町の中の各地域で今後どんなことをしていったらいいのか、要望というより、その各地域の提案になってくると思うので、それも細かく、もっと考えていけたらというふうに思える。
- 夜須町でどんなことがあるのか、町民運動の出場チームが少ないので、あとから2チーム多くするためにどんなことがあるのか、とか、「香我美町」で「西川」の活性化センターでやっているけれども、同じようなことを「東川」でもしたい「徳王子」でもしたい、じゃあどんなにやったらいいのかとか。野市の佐古祭りというのがあるが、何か同じことがまたできないかとか、物部川河川敷でウォーキングコースを作って健康政策というものをやっていきたいとか、「吉川」の駅前付近、宅地化してなにかできないか。いろいろ町全体のこともあり、地区でのこともあるかと思うが、要望というよりも、今後その地域の方が主体となり提案してきたことを、執行部と一緒に考えていくこと。というふうなことを、話し合いながら出していただきたい。
- 春からやっていく地区懇談会の中で、また提案をしていったらいいと思うので、このあくまでも地域活性化というのはこういうことで、県の地域アクションプランとは、やっぱり違う。市だから細かいからできることが余計にあると思う、そういう観点でぜひ考えていただきたい。

■委員長

- 最後のコメントは大切なところだと思う。顔が見える関係で新たな問題意識の解決へこをぜひ、香南市産業振興計画で肝にしていただければいいんじゃないかなと思う。
- 第二回目の策定委員会を終了させていただく。

以上